

## 第16回 織田信長サミット



# 信長に学び

# 個性ある町づくりをすすめる

## 第十六回 織田信長サミット

全国各地の織田信長公にゆかりのある市町村が集まって、歴史を活かしたまちづくりを話し合う、「第十六回織田信長サミット」が十一月二、三日に町文芸会館を主会場に開催されました。

このサミットは、昭和五十九年織田信長の生涯四百五十年を記念し、織田信長にゆかりのある十三市町村（現在は二十市町村）が團圓して、滋賀県安土町で第一回が開催されてから毎年開かれていきます。

甘栗町では、昭和六十一年に第二回サミットが開催されて以来、十二年振りの開催となりました。

今回のサミットでは、高崎経済大学教授山崎英吉先生（実引）をコーディネーターに、「歴史を活かしたまちづくり」と題したフォーラム（公開討論会）を開催しました。

開催主催者の別沢町長からは「このサミットは、信長公の優れた洞察力和果敢な行動力ぞし

てすばらしい発想力に学び、豊かな歴史・文化遺産を活かしながら、個性ある魅力的なまちづくりにしたい」との意見交換の場としてくださったとのあいさつがあり、始まりました。

各市町村からは、信長公との関係やまちづくりの事例、特に力を入れている事業などが説明されました。

また、このサミットを通じて交流を続けた結果、自治視察などの有意義な住民の交流も図ることができ、喜ばしいことであるとの意見もありました。

コーディネーターを務めた山崎先生は、

「信長公の持つ先見性、国際性は、現在の私たちも十分見習うべきであります。業市楽座はまさに規制緩和であり、当時にあって外国の物に興味を小し、取り入れたのは、すぐれた国際感覚によるものです。そのため、信長公にゆかりの市町村とあ

って、イベントなどをお聞きすると共通の空気のようなものを感じます。それは先ほど甘栗町長が言われた「種」の薫りなのでしよう。各市町村の歴史を大切にしている心が高い評価を受けています。これからも訪れる遺産を保存し、まちづくりをすすめてください」と激励しました。



中小路で記念撮影（2日）